

課 題 名 いちご「まりひめ」の高品質・安定生産
指導対象 ： 那賀地方いちご生産組合連合会(107 名)

1. 取組の背景

H22 年に品種登録された県育成品種「まりひめ」は、市場での評価も上がってきており、さちのかを超える栽培面積となっている。

しかし、これまで主力品種であったさちのかに比べ、まりひめは、炭そ病に弱く、心止まり株や出蕾遅延株の発生が多く見られることから、原因と対策を示した育苗マニュアルの作成が急務となっている。育苗マニュアルを活用することにより、高品質安定生産に取り組む。

2. 活動内容

(1) 炭そ病検定・花芽検鏡の実施

6 月から 8 月にかけて、合計 36 検体の炭そ病簡易検定を実施した。

8 月 20 日から 10 月 7 日の間に JA 営農指導員とともに、12 回の花芽検鏡を行い、241 株を検定し、適期定植の指導を実施した。また、検鏡できる技術員の育成にも取り組んだ。

(2) 「まりひめ」育苗マニュアルの普及

4 月から 9 月にかけて、改訂した育苗マニュアルを那賀地方いちご生産組合会員に配布するとともに、園地巡回により農家個別に育苗改善指導を行った。



花芽検鏡による適期定植



間欠冷蔵処理の普及

3. 具体的な成果

(1) 花芽検鏡の実施による適期定植指導

特に間欠冷蔵処理した株について、出蕾遅延株の発生が問題となっていたが、花芽分化確認後の速やかな定植を推進した結果、出蕾遅延株の発生はほとんど見られなくなった。

花芽検鏡を実施するにあたり、検鏡できる技術者の育成が必要であり、技術講習を 3 ヶ年開催し、JA 営農指導員と普及指導員への技術養成を行った結果、技術者 2 名を育成することができた。

(2) 「まりひめ」育苗マニュアルの普及

炭そ病対策として、マニュアルによる育苗方法を推進した結果、2 農家が令和 2 年産の育苗から雨よけ＋ベンチアップ育苗（県単事業を活用）を取り入れ、育苗方法を改善することができた。引き続き、県単事業を活用した育苗方法の改善に取り組んでいく。

4. 農家等からの評価・コメント

(1) 花芽検鏡の実施による適期定植指導（紀の川市A氏）

間欠冷蔵処理を実施しており、花芽検鏡で花芽分化確認後の定植を徹底することで出蕾遅延株の発生を抑えることができた。昨年発生が多く見られた芯止まり株については、冷蔵庫への入庫前の肥料切りを遅らすことで発生を抑制することができた。

これからも育苗期の肥培管理と適期定植を徹底し、まりひめの安定生産を実践したい。

(2) 雨よけ＋高設育苗の導入（紀の川市B氏）

導入前は、炭そ病の発生などにより、定植苗の確保が毎年不安定な状況であったが、雨よけ＋ベンチアップ育苗を導入した結果、炭そ病等による株枯れの発生が問題とならない程度に抑えられた。

今後、定期的な予防散布を徹底しながら進めていきたい。

5. 指導員のコメント（那賀振興局農業水産振興課・主査・奥野直行）

(1) 花芽検鏡の実施による適期定植指導

まりひめについては、その品種特性（出蕾遅延株の発生）から、花芽検鏡により花芽分化を確認してから定植することが必須であり、引き続き関係機関と協力しながら指導していく。

また、まりひめを普及するに当たっては、花芽検鏡は重要な業務となり、技術者の育成も必須であることから、引き続き、普及指導員やJA営農指導員を対象に技術講習を開催し、技術者を増やしていく。

(2) 「まりひめ」育苗マニュアルの改訂・普及

まりひめの炭そ病対策については、雨よけベンチアップ＋底面給水育苗が有効であるが、底面給液は、コストやかん水ムラの発生などの課題があることから、まずは、ベンチアップ＋雨よけ育苗を推進していく。底面給液については、給液管理が安定する技術となれば導入を推進する。

また、心止まり株などの対策については、マニュアル配布や園地巡回により、育苗期の肥培管理の改善が見られ、発生は減少している。

今後も、マニュアルを改訂させながら、育苗方法の改善を進めていきたい。

6. 今後の展開等

〔継続〕

- 1) 適期定植の推進（花芽検鏡による適期判断と熟練技術者の育成）
- 2) 高設育苗の推進（マニュアルを活用した健全育苗技術の普及）

〔新規〕

- 3) 環境制御技術の導入実証（複合環境制御による収量アップと食味向上）
- 4) 紀の香の安定生産に向けた栽培状況調査（栽培上の問題把握）